

国際交流 Newsletter



編集・発行：白石市国際交流協会事務局（白石市役所まちづくり推進課内） TEL 0224-22-1327 FAX 0224-22-1451

◆白石市国際交流協会の活動を紹介◆

◆白石市国際交流協会主催◆ 国際理解を深める講演会



～南アフリカ共和国を知る～

2022年8月5日(金)開催

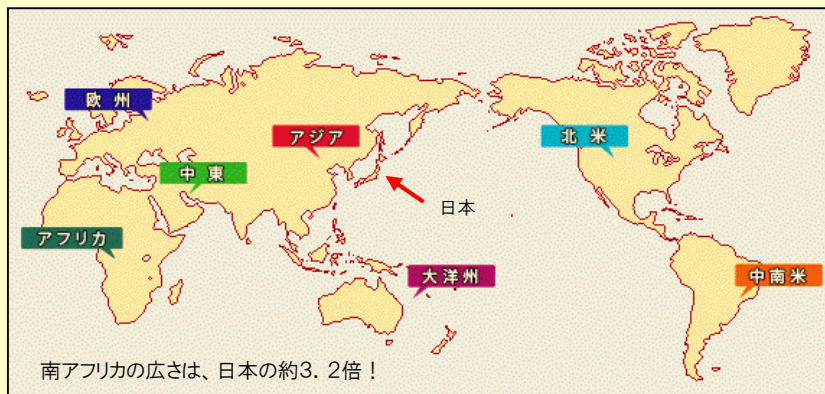
南アフリカのヨハネスブルグ日本人学校で3年間教壇に立たれた、白石第二小学校の教諭である松崎遼太郎先生を講師にお迎えし、「国際理解を深める講演会」を会場（市役所）及びオンライン会議システム（Zoom）で開催しました。

南アフリカについて様々な話題を、写真や映像を使用しながらわかりやすくお話いただきました。以下は講話内容を記録したものになります。みなさんに、少しでも南アフリカという国を知ってもらえたらと思います。



▲松崎遼太郎先生

南アフリカ共和国を知ろう！



地図引用：外務省

▶ 3年間暮らしても理解できなかったこと

- ✓ 信号機が倒れている→渋滞の起因。
信号機の電機系統が盗まれる。
- ✓ 郵便が届かない。
- ✓ 請求がかなり遅い。



実話：保護者へ手紙を出す授業で7人の児童が手紙を書き、5月に投函した。信じられないのだが、届いたのは翌年の2月。しかもたったの1通のみ。投函した時期がストライキ中だったこともあるが、普段の郵便事情は悪い。

▶ アフリカのイメージと違った南アフリカ

- ✓ 住んでいたヨハネスブルグなどの都市は近代的な街。
- ✓ イオンモールのようなショッピングモールがある。
- ✓ 日本食が食べられる。
- ✓ お寿司も食べることができるが日本より値段が高い。日本人シェフがにぎっている店もある。
- ✓ 日本食材が手に入り、家で日本食を作ることができる。（日本の食材は輸入しているので輸送費がかかっており、ちょっと高価だ。）

▶ 安全に暮らすために…

- ✓ 歩いて行動しない。
- ✓ 車の助手席にはバッグを置かない。停車中に盗まれる。
- ✓ 車から離れるときはロックを確認する。
- ✓ 日本人学校は24時間セキュリティ下にあり、高圧電流が流れているエレクトリックフェンスが敷地を囲んでいる。
- ✓ 教員が住む居住エリア内にもエレクトリックフェンスがある。居住区内には24時間体制のセキュリティ小屋があり指紋認証が設定されている。2時間ごとに見回りあり。

▶ 公用語の数は世界一！

- ✓ なんと！その数は11言語。
 - ✓ 英語、アフリカーンス語、ズールー語、コサ語、北ソト語、ソト語、南ンデベレ語、スワジ語、ヴェンダ語、ツォンガ語、ツワナ語
- ※公共の場では英語が通じる。アフリカーンス語はオランダ語に近い。これはオランダ人が入植した歴史があるため。また、英語はイギリス人が入植した歴史から公用語として話されている。

▶ 人の自由を奪う「アパルトヘイト — 人種隔離政策」

- ✓ アパルトヘイトはアフリカーンス語で「分離・隔離」を意味し、南アフリカでは白人と非白人の様々な関係を規定する人種隔離政策を指す。
- ✓ 1948年に法律で定められ、内容は、人種ごとに住む場所が決められ、トイレ・乗り物も別、白人のみが利用できるビーチ、異人種の結婚禁止など、人の自由を奪う政策だった。
- ✓ 黒人の選挙権はなく、白人は裕福で、黒人は貧困。
- ✓ 異人種と結婚できない白人も苦しんだ。

▶ ネルソン・マンデラ大統領の誕生

- ✓ 反アパルトヘイト活動をしていたため、1962年、国家反逆罪で逮捕され27年間獄中生活をおくる。1990年釈放。
- ✓ 1976年の学生による蜂起で警察隊の発砲で13歳の少年が死亡。これが世界から非難され反アパルトヘイト運動が広まり、南アフリカは経済制裁をうける。
- ✓ 当時の大統領であったデクラークがアパルトヘイトを終わらせ、1994年にどの人種の人も投票できる選挙を実施。そして、ネルソン・マンデラが大統領に選ばれた。

▶ 南アフリカが「虹の国」と呼ばれる理由

- ✓ 肌の色が異なる人々が共存する国が虹色の国。多人種共存の国「レインボー・ネーション」。
- ✓ 大統領となったマンデラは、差別されていた黒人も、差別していた白人も、いかなる肌の色の人でも平和に暮らせる「虹の国」を築こうと国民に呼びかけた。南アフリカに住む様々な人種・民族の人々が尊重される理想の国家像を、マンデラ大統領は「虹の国」と呼んだ。



▶ 人種の割合と貧富の差

- ✓ 黒人(79%)、白人(9.6%)、混血のカラード(8.9%)
アジア系(2.5%) ～～外務省データ～～
- ✓ 2014年世界銀行の調査では、白人家庭の年収は、黒人家庭の約4.8倍あり、貧富の差があることがわかる。そして、黒人と白人の割合から貧しい家庭が多いということも。
- ✓ 現状は、アパルトヘイトは終わり差別することは法律で禁止された。しかし、差別はまだ残っている。

▶ 南アフリカの国歌

- ✓ 1994年、マンデラ大統領が、「神よ、アフリカに祝福を」と「アフリカの呼び声」の2曲を国歌にし、1996年、「虹の国」にするために2曲をつなげた。
- ✓ 「神よ、アフリカに祝福を」は、アパルトヘイト下で黒人たちに歌われたが“反逆歌”とみなされ歌うことを禁止された。歌詞にはコサ語、ズールー語、ソト語がある。
- ✓ 「南アフリカの呼び声」は元々南アフリカの国歌で、英語とアフリカーンス語の歌詞がある。

▶ 南アフリカの国旗に注目してみよう！



＜国旗の意味と由来＞

- ✓ 1994年に制定された新しい国旗。『Y』の字が横になった形は、国内の様々な人種・民族が協調・統合されて前進することを示す。以下は国旗の色が何を表しているか。
- ✓ 赤色は独立のために流された血の犠牲を、黒と白は黒人と白人の平等を、緑色・黄色・青色はそれぞれ農業・鉱業・漁業の豊かさを表している。

参考：世界の国旗図鑑



▶ 国際交流の授業と駐在している方たちとの交流

- ✓ 現地の小学生に漢字の書き方を教えたり、日本の伝統の折り紙も教えた。(もちろん英語で！)
- ✓ 南アフリカの国歌を一緒に歌った。児童には事前に国歌のいきさつを話していたので、現地の児童と同じように胸に手を当てて歌っていた。“思い”が詰まった歌ということを理解していたように思う。日本のソーランを一緒に演舞した。
- ✓ 子ども同士の交流のほか、駐在している方たちから普段どのような仕事をしているか話を聞く機会があった。

▶ 学校と教育について

- ✓ 毎月授業料を支払う準公立学校がある。
- ✓ 準公立のグリーンサイド小学校は約2500ランド。
- ✓ 私立のラドフォード小学校は約9000ランド。
※1 ランドは約8円
- ✓ 黒人と白人家庭の年収で分かるように、公立学校に通う児童は黒人が多い！

▶ 教育の問題点 → 負の連鎖

- ✓ 言語の問題。例えば、入学時はズールー語で授業を受けていたのが3・4年生時に英語に切り替わる。そのため算数の問題を解く際困難に直面し、それが学力低下につながっている。

▶ 南アフリカの人たちの言語習得能力と彼らの英語の発音

- ✓ 多言語が話されている環境があり、彼らの言語習得能力は高い。
- ✓ 駐在の方によると、ビジネスにおいて南アフリカの人はキヨスクで働いているエチオピア人の言葉をすぐに習得し、それが物販の売り上げアップにつながっているそうだ。
- ✓ 英語の発音は母語に影響され発音される現実がある。日本人がカタカナ英語を話すように、南アフリカの人たちも母語に影響されて発音している。

▶ アフリカと言えば・・・そう！『動物』 — アフリカのイメージどおりのアフリカが存在する



▲クルーガー国立公園外で。公道を渡っているキリン。



▲キリンと触れ合える場所がある。

💡 成熟した大人のキリンの身長は、メスで4m、オスだと5mにもなる。これは一般的なアパートの2階に相当する高さ。体重は、メスでは約800kg、オスでは約1200kg。首だけでも100～150kgくらいの重さがある。参考:郡司芽久著「キリン解剖記」



▲クルーガー国立公園近くのホテルのプールで遊んでいたゾウさんが水浴びに来たゾウ〜〜(*^_^*)



▲メスのライオンが車の脇を通過・・・。車に柵はなし！動物に対する感覚も違うことが体感できる。

▶ 南アフリカの生活で感じたこと

✓ サッカーが好きで現地のサッカーチームにも入った。そこで感じたことは、言語がうまくできなくても、得意な好きなことを一緒にすると心が通じ合えるということだ。海外に行く機会がある方は、ぜひ得意なことを生かしてほしいと思う。

✓ 南アフリカでは、『多様性』をすごく感じた。日本は「みんな同じというところがスタート」だが、南アフリカは「みんな違うというところがスタート」する。

▶ これから日本で大切にしたいこと

✓ サッカーチームで助っ人で来てくれた友人(南アフリカ生まれの中国人)の言葉が今でも印象に残っている。

“I hope I will make a difference.” (違いを生み出すよ、僕がチームを強くしてあげるよ。)

✓ 今後日本社会を支える外国人が増えていくなかで、大切にしたいことは、「お互いの違いを認め合い、尊重する」ということだ。



▶ 映画『インビクタス / 負けざる者たち』

松崎先生の講話の中で少しふれた映画の紹介。2010年日本公開。監督は巨匠クリント・イーストウッド。出演は名優モーガン・フリーマン、マット・デイモン。差別によって引き起こされる、人種間の対立。南アフリカだけでなく多くの国が直面している問題だが、国内が大きく分断されるなか、スポーツが持つ力によって、人種の異なる多くの国民同士の心情をつなぎとめた指導者がいた。この映画は、マンデラ大統領が「許しは魂を自由にする」精神で成し遂げた出来事を映画化した作品である。白人のスポーツであったラグビーは、人種隔離政策(アパルトヘイト)に苦しむ南アフリカの8割を占め非白人にとって「敵のスポーツ」だった。試合会場を埋め尽くしているのは白人ばかり。数少ない黒人は相手国のチームを応援している。黒人大統領を嫌う白人。そんな白人たちも尊重し民族の融和を図っていくマンデラ大統領。彼の不屈の精神はラグビーチームへ引き継がれていく…。 ※「invictus」とは、ラテン語で「征服されない、屈服しない」を意味する。

参考: cinra.net コラム

▶ 講演会参加者の感想



《興味深い話ばかりでもっとお話を聴きたかった。》

《「互いの違いを認め、尊重し合う。」今の日本、学校現場にとって大切なことだと感じた。》

《実際に住んだ人でないと感じられない内容を聴けた。》

《公用語が11言語あることに驚いた。》

《格差や差別など南アフリカだけでなく、世界に共通する課題があると考えさせられた。》

《写真や映像があったので、非常にわかりやすかった。》

《英語が話せなくても、特技を持っていることで通じ合えることが素晴らしいと思った。》

《松崎先生の説明がわかりやすかった。》

《まだまだ人種の壁は大きいと実感した。》

《人種差別や安全の問題を聞いて、日本の良さが改めてわかった。》

《多様性を大切にして、外国の方と接したいと思った。》

《美しい自然がある国だとわかった。》

★編集後記★

松崎先生、とても有意義な講話ありがとうございました。どの話題も興味深くあっという間に終わった講演会となりました。『他国を知って自国を知る、南アフリカを知って日本を知る』。遠くて遠い国だった南アフリカが身近に感じ、また、日本がどんな国なのか再認識できた機会でもありました。「互いの違いを認め合い、尊重する」ことがどういうことなのか理解できた講演会でした。

ホワイトストーンジャーナル—国際交流 Newsletter Vol.182
国際交流ニュースレターは「白石市国際交流協会」のホームページで閲覧できます。

<http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/soshiki/17/12532.html>

白石市国際交流協会

検索